

受験体験レポート 2011年度入学試験
A.T

受験校名

早稲田大学 社会科学部（帰国生入試、共通試験）

試験日

共通試験 2010年9月3日

試験日数と試験形態

試験日数： 1日（社会科学部は2科目なので、午前中に全ての試験が終了します。）

試験形態： 国語（現代文を60分。漢字問題5問程度、残りは選択問題と記述問題で構成されています。）

英語（長文5問、穴埋め15問、誤文訂正10問、エッセイ1つを90分で解きます。）

傾向と感想

共通試験の過去問は、過去3年分早稲田大学のホームページに掲載されているので、そこにある過去問と駿台が保管している2004年からの過去問を一通りやって慣れるのが一番だと思います。

国語：現代文は文中の漢字の読み仮名を答えるのと、平仮名を漢字に変えるので、大体毎年5問程度あります。残りは、選択問題が多い年と記述問題が多い年とがわかれるので、どちらが当たるからはわかりません。どちらにしる、問題を先に読み、主題を検討しながら読んでいく上でそれに沿ったキーワードを押さえながら読み進めるのがお勧めです。記述問題ならそのキーワードを組み合わせて字数内で説明し、選択問題はそれらのキーワードを使った選択肢を選びます。あと、時々言い換えの問題があるのですが、例えば「5字以内」と書いてあった場合、答えは一文字少ない4字のことが多いです。

英語：全体的に出題形式がTOEFLに似ています。読解力を測る長文は問題の中に答えが隠されているので、先に問題を読んでから長文に入ると解きやすいかと思われます。穴埋めは出題パターンがあるので、Z会の参考書を一通りやると文法を一から勉強しななくても、ある程度答えられるようになります。英語ならではの言い回しやことわざなどは構文で勉強するのがお勧めです。誤文訂正は文法の問題なので、やはり先ほどのZ会の参考書が役に立ちます。エッセイは試験官側からしても量が多いので、上記の問題がある程度出来てれば見られる可能性は少なく、成績が全体からしてボーダーラインのときにエッセイを見て可否を判断するそうです。エッセイはおもに全体の構成や英語力など基本的な部分を見てくるので、内容にこだわりすぎず文法に重きを置いた方が良いでしょう。

早稲田大学は基本的に、政治経済学部、商学部と法学部以外の学部は共通試験でどちらの科目も7割程度とれていたら大丈夫なはずですが。但しもちろん6割8割、6割7割で合格している方もいるのであくまで推量です。上記の3学部は共通試験で全体的にずば抜けて頭が良い人が集まるので、7割以上とれていないと厳しいかもしれません。